



TITLE:

# 京大東アジアセンターニューズレター 第572号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター

---

CITATION:

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター. 京大東アジアセンターニューズレター 第572号. 京大東アジアセンターニューズレター 2015, 572

ISSUE DATE:

2015-06-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/198265>

RIGHT:

2015 年 6 月 1 日発行 第 572 号

## CONTENTS

「中国経済研究会」のお知らせ 1.....	2
「中国経済研究会」のお知らせ 2.....	3
上海街角インタビュー 82.....	5
読後雑感：2015 年 第 13 回.....	8
【中国経済最新統計】.....	14



## 「中国経済研究会」のお知らせ 1

---

2015 年度第 2 回（通算第 48 回）の中国経済研究会は下記の要領で開催することになりましたので、ご案内いたします。今回の講師となっている朱建栄先生は日中関係に関する著名な専門家で、日本のメディアでも大変活躍しており、最新の情報を盛り沢山話していただけると期待しています。大勢の方のご参加をお待ちしております。

### 記

**時 間：** 2015 年 6 月 5 日(金) 16:30－18:00

**場 所：** 京都大学吉田キャンパス・法経済学部東館地下 1 階 みずほホール

AB

**テーマ：** 「AIIB の動きから見る中国外交の新しい戦略」

**報告者：** 朱建栄（東洋学園大学教授）

注：本研究会は原則として授業期間中の毎月第 3 火曜日に行いますが、講師の都合等により変更する場合があります。2015 年度における開催(予定)日は以下の通りです。

前期：4月24日（金）、**6月5日（金）**、6月13日（土）、7月21日(火)

後期：10月20日（火）、11月17日（火）、12月15（火）、1月19日（火）

（この研究会に関するお問い合わせは劉徳強（liu@econ.kyoto-u.ac.jp）までお願いします。なお、研究会終了後、有志による懇親会が予定されています。）



## 「中国経済研究会」のお知らせ 2

---

2015 年度第 3 回（通算第 49 回）の中国経済研究会は中国経済経営学会と共催する形で下記の要領で開催することになりましたので、ご案内いたします。本学東アジア経済研究センター関係者の皆さんもご自由に参加することができますので、大勢の方のご参加をお待ちしております。

### 記

#### 2015 年度中国経済経営学会学術研究会西日本大会

共催：京都大学東アジア研究センター

#### プログラム

時間：2015 年 6 月 13 日 10:30-18:00

会場：京都大学吉田校舎法経済学部東館みずほホール（地下一階）

[http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r\\_y/](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_y/)

（構内マップの 5 番）

#### 1 セッション：報告 30 分、コメント 10 分、討論 15 分の合計 55 分

10:30～10:35 開会あいさつ(厳善平会長)

座 長：梶谷 懐（神戸大学）

10:35～11:30

題 目：新疆ウイグル自治区における過放牧問題と定住化政策の効果

報告者：ミキリグリ アデリ(京都大学大学院)

討論者：大島一二（桃山学院大学）

11:30～12:25

題 目：How wage rises affect capital-labor ratio in Chinese enterprises

報告者：Yanxin Hua(京都大学大学院)

討論者：厳善平（同志社大学）

12:30～13:50 理事会

座 長：中川涼司（立命館大学）

14:00~14:55

題 目：中国における地方政府支出の家計消費に対する影響  
—1999～2012 年省レベルパネルデータに基づく実証分析

報告者：鄒蓉（同志社大学大学院）

討論者：梶谷懐（神戸大学）

14:55~15:50

題 目：Financial Constraints, Firm Productivity and Debt: Evidence of  
Chinese Manufacturing Enterprises

報告者：張冬洋(京都大学大学院)

討論者：矢野剛（京都大学）

15:50~16:00 休憩

座 長：大島一二（桃山学院大学）

16:00~16:55

題 目：中国都市部における定年年齢以上人口の労働供給決定：年金と教育  
水準の影響および地域差異

報告者：楽君傑・葉晗(浙江大学)

討論者：馬欣欣(京都大学)

16:55~17:50

論 題：日本の対中貿易構造の特徴：1996 年－2010 年

報告者：寺町信雄（京都産業大学）

討論者：曾根康雄(日本大学)

18:15~20:00 懇親会

## 上海街角インタビュー ⑧

社団法人大阪能率協会アジア・中国事業支援室副室長（海外委員）

順利包装集团董事长（在上海）

福喜多技術士事務所所長

福喜多俊夫

### 中国語は難しい

先日、中国人の友人数人と食事をしていた時、「最近、你身体好嗎？」（最近、体調はどうですか）と聞かれたので、「まあまあです」のつもりで「馬馬虎虎」と答えたところ、「どこか悪いのか？」と心配されて面食らってしまった。同席していた別の友人が「馬馬虎虎」は否定的なニュアンスがあるので「あまりよくない」と受け取ってしまうと教えてくれた。そこであわてて、「还可以」（かわりない）と言い直した。そのあと「馬馬虎虎」論で盛り上がったが、「馬馬虎虎」は話している話題によって「いいかげんだ」という意味になったり、単純に「まあまあだ」という意味になったりするようだ。

英語でも「多分」を表すのに、確度によって *may be* と *probably* を使いわけますが、中国語も、同じ表現でも雰囲気によって意味が違ったり、微妙に表現を使い分けたりする。外国語は初心者には難しい。街場で外国人が困りそうな表現について聞いてみた。

### 1. 50 歳代前半の男性

中国に来た外国人が、日常生活でも、仕事の間でも一番面食らうのは「差不多」でしょう。「差不多」は（ほとんど同じ）という意味ですが、使う方は至極便利、使われる方は厄介な言葉です。サンプルと色目が多少違う本生産品が入ってきて、あなたが抗議しても相手は「差不多」と言ってなかなか取り合ってくれません。延々と交渉することになりますよ。

（筆者は中国に住んだ直後にこの洗礼を受けた。5 個揃いのガラスコップを買いに行ったとき、微妙に形が揃っていないくて、取り換えを要求したが、店主は「差不多」といって取り合ってくれず、結局買わなかった。仕事の間では、自社の社員にも「差不多」を連発されている）

## 2. 30 歳代中頃の女性

会社で事務員に何かしてもらった時、「謝謝」というでしょう。この時、相手はどのように返してきますか？ この返事であなたに対する距離感（親しみ）が分かりますよ。「没问题」「没关系」「没事」、どれでしょうか？ 遠くから近くになります。「没事」が一番近い関係にあります。もし、「不用謝」と言われたら、あなたは仲間じゃなく、お客さん扱いです。

## 3. 40 歳代中頃の男性

中国語には同じ言葉でも季節によって自動的に違った意味になる言葉があります。例えば、「能穿多少穿多少」という表現は、冬は（なるべくたくさん着る）という意味になり、夏は（なるべく少なく着る）という意味になります。中国人は自動的に頭が切り替わるから混乱することはありません。

また、状況によって微妙に意味が変わります。例えば、「原来是喜欢一个人」は（昔、一人の男性『あるいは女性』が好きだった）という意味ですが、これが「现在是喜欢一个人」となると（今、ひとりぼっちが好き）という意味になります。

## 4. 40 歳代中頃の女性

「好」も簡単なようで、外国人は用心しなければならない言葉ですよ。「好」は本来、いい意味を表す言葉です。「你好」（こんにちわ）、「早上好」（おはよう）、「好的」（OK、わかった）、「好」（いいぞ）、「太好了」（とてもいい）などがありますが、部下に何かを指示したとき「好、好、好、好……」と連発する場合は、（はい、わかりました）というニュアンスより（うるさいな、もう分かったよ）という意味が込められているから用心してください。

## 5. 40 歳代後半の男性

英語にも面会を断るときに「I have another appointment」というと、それ以上深くは詮索せず、面会を断られているのだなと了解する不文律がありますが、中国語にも同じような場面で「有点事情」（ちょっと用がありまして）と言います。こういわれたら、遠回しに断られていると理解してください。

## 6. 50 歳代中頃の男性

「等一下」と「以后再說」も日本人には難しいかもしれませんね。「等一下」は（ちょっと待って）という意味ですが、使う場所によっては（後で）という意味になります。



会議の場で「等一下吧」と言われたら、(それは後で話そう) という意味になり、ここでは話題にしたくないというニュアンスが含まれます。また、議論の場で「以后再説」と言われたら、(とりあえずその問題は棚上げしましょう) という意味です。但し、あとで話し合う気があるかどうか分かりません。

## 7. 30 歳代後半の女性

日本語でも地方によって使い方が異なる言葉があると思いますが、中国語でも地方で気をつけないといけない言葉があります。私は東北の出身ですが、「小姐」と言われると違和感を持ちます。上海では「李小姐」などと愛称として「小姐」を使いますが、東北地方では水商売の女性にしか使いません。

また、服を買うときに大きなサイズを「大号」といいますが、これは服を選ぶとき以外の場では使ってはいけません。「大便」という意味もあるので用心してください。

インタビューの結論、こんなことをいちいち気にしていたら中国語はしゃべれない。外国人が間違った表現をするのは当たり前、気にせず知っている中国語をどんどん使おう。そして、親しい友人に「自分がよく使う表現」が間違っていたら指摘してもらおうのが中国語上達の早道と思う。

以上



## 読後雑感：2015年 第13回

---

29. MAY. 15

アジア・アパレルものづくりネットワーク代表理事

株式会社小島衣料オーナー

東アジアセンター外部研究員

小島正憲

1. 「失敗のしょうがない華僑の起業ノート」
2. 「世を捨てれば楽になる」
3. 「人生、ぐうたらに徹すべし」
4. 「ありのままでもいい、ありのままでなくてもいい」
5. 「気にしない生き方」
6. 「しんがりの思想」
7. 「余命」
8. 「老いの作法」

### 1. 「失敗のしょうがない華僑の起業ノート」 大城太著 日本実業出版社 2015年5月1日

帯の言葉：「“儲け”を確実に生み出す門外不出のノウハウ、教えます」

大城氏の本書は、起業を志している若者には、参考になると思う。しかし大城氏が本書を、わざわざ「華僑」と銘打って売り出している割には、「華僑」の特性があまり書き込まれていない。題名から「華僑」という文字を消しても、そのまま通用しそうな感じの本である。

あえて本書から「華僑」の臭いのする記述を選び出すとすれば、「いちばんカシコイ人は3位を狙っていく」という部分だろう。大城氏は、「3位は1位とは戦わず、2位から攻撃されにくく、値下げ合戦に巻き込まれずに自分たちの戦い方ができ、その上それなりのシェアを獲得できるという、おいしいポジションですから、3位を取ることができればOKで、2位を狙う必要はありません。2位になったら1位からライバル視されますので、それよりも下位の企業と手を組むなど、3位ならではのやり方で足下を固めるのが賢いですね」という部分だろうか。

また大城氏は文中で、たびたび「華僑と中国人」という文句を使っているが、その定義もあいまいで、両者の差異などについての分析も明快ではないため、それが読み手を混乱させている。広辞苑の「華僑」の項には、「中国本土から海外に移住した中国人およびその子孫。東南アジアを中心に、全世界に散在する。牢固たる経済勢力を形成し、その本国への送金は、中国国際収支の重要な要素をなしていた。第2次大戦後は二重国籍を捨て、現地の国籍を取得する者が増加し、彼らを華人と呼

び、中国籍を保持したままの者を華僑と呼んで両者を区別する場合がある」と書いてある。私はそれに付け加え、「第2次大戦前に中国外の国籍を取得した中国人を旧華人、大戦後に取得した中国人を新華人、大戦前から中国籍を保持しながら中国外で活躍している中国人を旧華僑、大戦後に中国外で活躍している中国人を新華僑」と定義し、考察することになっている。この分類で考えると、大城氏が師事したのは、旧華人であり、新華人・旧華僑・新華僑ではない。旧華人と新華僑との間には、大きな隔たりがあり、まったく別人種と考えた方がよいので、「華僑と中国人」というように一括して記述するのは誤りであると、私は考える。

大城氏は、華僑から学んだ教えとして、「修身齐家治国平天下、すべて同じ。自分を修身して家をまとめられない人が国をまとめられるわけがない、会社をまとめられるわけがない」と書いている。私もかつて同じ文句を、香港の旧華人から教えられたが、その解説は大城氏のものとは、まったく違うものだった。それを教えられたとき、私はそこに、華僑の真髓が凝縮されていると思った。以後、私はそれを拳々服膺している。

なお、本書の目次に、「“盲目に像”を意識する」という項があり、おもしろそうだったので早速そこを読んでみた。しかし本文は、「“盲目に象”を意識する」というものであり、しごく平凡な記述であった。それは「象」を「像」とした単なる誤植であったが、このことは著者のアバウトな性格を表すものと、私は受け止めた。

## 2. 「世を捨てれば楽になる」 北杜夫著 河出書房新社 2015年4月20日

帯の言葉：「人生、人それぞれ。自分なりに、まあよくやったと思えばいいのだ。あとは風まかせ、妻まかせ、娘まかせ。老いの境地をユーモラスに綴る 36 篇」

この本は、30 年ほど前からの北杜夫氏のエッセー 36 篇を収録したものである。たしかに文章は軽妙洒脱であり面白いが、「世を捨てれば楽になる」というタイトルにふさわしい内容のものは皆無である。北杜夫氏が亡くなって、すでに 5 年が経つ。なぜ今、この本が出版されたのか、私には分からない。

## 3. 「人生、ぐうたらに徹すべし」 遠藤周作著 河出書房新社 2015年3月20日

帯の言葉：「思い切り楽しもうじゃないか！ 人生、どう転んでも同じだからな。老いてますます絶好調！ 好奇心あふれる達人の生き方、37 篇」

この本も、45 年ほど前から 20 年ほど前までの遠藤周作氏のエッセー 37 篇を収録したものである。この本もまた文体が平易で、内容がウイットに富んでおりおもしろい。ただし遠藤氏が死去して約 20 年が経った今、私にはこの本が、「人生、ぐうたらに徹すべし」と題されて、あらためて世に出された意味がよくわからない。

この本で遠藤氏が老人問題に言及しているのは、20 数年前の次のような文章のみである。「現代日本ではもう役にもたたぬ老人をもてあましている」。「“年をとっても

立派に生きることはむつかしい」と私は昔、渡辺一夫先生にうかがったことがある。若年だった私には、その意味がよくわからなかったが、この年齢になってようやく“なるほど”と思うようになった。日本がこれから老人国家になるにつれ、老人が“立派に生きる”ことを我々は色々な面で論じていいのではないか。老人問題というとかく経済問題、病気の問題に集中しがちだが、老人のもつあの本質的な寂しさや死の恐怖や孤独観を各自がどのように考え、処理するか、私は知りたいのだ」。

なお、現在、巷では中国人観光客の“爆買い”が話題になっているが、遠藤氏は本書で、かつての日本人の欧州での“ミニ爆買い”について、「浪費の中には虚栄心とともに、自信のなさがたしかにある」と書いている。これは本質を突いている。私は、「現在の中国人には、さらに“大きな不安”があり、いわばそれは“買い物依存症の主婦の行動”のようなものだ」と付け加えたい。

#### 4. 「ありのままでいい、ありのままでなくてもいい」 ネルケ無方著 KK ベストセラーズ 2015 年 3 月 30 日

帯の言葉：「日本人の美德は“じぶんらしさ”より、“共感できる力”！“私”とは何か？ “仕事”とは何か？ “生きる”とは何か...？」

著者はドイツ人で、16 歳のとき坐禅と出会い、1990 年に京都大学に留学、修行の後、兵庫県にある安泰寺の住職となり、現在に至っているという異色の人である。ドイツ人の禅僧の書いた本なので、かなり違った角度からの仏教観が学べると思い、勢い込んで読んでみたが、残念ながらしごく平凡な書であった。

ネルケ氏は本書で、「仏教の教えの核心は、“執着”を手放すことです。“執着しない”ことを突きつめると、最終的には“生きる”ことも手放すことになります」、「執着はあってもいいし、なくてもいい。生きることで悩んでもいいし、悩まなくてもいい」、「ありのままでいい、ありのままでなくてもいい」、「何も、ありのままに生きなくてもいいのです。なぜなら、あなたも、私も、いま生きているからです」と説いている。

ネルケ氏は本書で、「室町時代の禅僧、一休さん(一休宗純)の最期の言葉は、“死にとうない”だと言われています。高僧ですら、“死にたくない”と思うのです」と書いているが、これは違う。一休禅師の名誉のためにも、はっきりさせておくが、彼の最期の言葉としては、「濛々として三十年 淡々として六十年 末期に糞を晞して梵天に捧ぐ」と、「須弥の南畔誰かわが禅を会す 虚堂来るも 半銭に直せず」の二つがあり、共に直筆の書が遺されている。共に遺稿としては最高におもしろいものであり、その一休さんが最期に、「死にとうない」などと口走ったとは、私には到底思えない。

#### 5. 「気にしない生き方」 吉村昇洋著 幻冬舎エデュケーション新書 2015 年 4 月 25 日

帯の言葉：「臨床心理士の禅僧が説く 心を楽にする方法」

著者の吉村昇洋氏は、広島県内の病院に臨床心理士として働きながら、曹洞宗八屋山普門寺の副住職を勤めているという、これまた異色の人である。私は、きっと面白い見解を知ることができるだろうと思い、心を踊らせて、本書を開いた。しかし上掲著同様、きわめて常識的な文章が書き連ねてあるだけであった。以下に参考箇所を列記しておく。

・私の好きな禅語に、“放下著”という言葉があります。簡単に言えば“こだわりを捨ててしまいなさい”ということ。究極的には“執着を捨てたことも捨て去りなさい”、“悟りを得たことさえ捨て去りなさい”という深い意味があります。

・一番良くないのは、中途半端にねたむこと。どうせねたむなら、ねたんでねたんでねたみきってしまいましょう。

・死は残された人たちにとっては大きな喪失体験です。いつかは私たちにも死が訪れます。家族の死に学びながら、“自分が死ぬときには、周りの人にどんな影響があるだろうか”ということに意識を向け、“生き方”同様に“死に方”についても少しずつ考えていきましょう。

・過去の成功体験ほど自分の成長の妨げになるものはありません。喜ばしいことであっても、悲しいことであっても、それはそれであるがままに受け止めた後は、あっさりと手放してニュートラルな状態に戻る。この心構えが必要。

## 6. 「しんがりの思想」 鷲田清一著 角川新書 2015年4月10日

副題：「反リーダーシップ論」

帯の言葉：「“自由”と“責任”の新しいかたち」

著者の鷲田氏は、団塊の世代で、著名な哲学者である。しかも専門は「臨床哲学」である。私には、それがいかなるものか、よくわからなかったが、とにかく本の題名につられて読んでみた。本書は、鷲田氏の現代社会についての憂いや警告で、その大半が占められている。鷲田氏は、「わたしたちはいま、放射能で自然を修復不能なまでに壊したまま、それを次世代に手渡そうとしている」、「わたしたちはまた、法外な国の債務を未来世代につけ回して平気である」、「家族や地域共同体はかつて何よりも相互の《いのちの世話》の場であった。栄養摂取のための調理、排泄物の処理、ゴミ処理、洗濯、病気の看護、もめ事の解決、老人の介護、子供の養育と教育、看取りと弔いと葬送、祖先の墓守りなどである。この担い手が、近代的なサービス社会化の進行とともに、外食産業や食品流通産業、行政による下水道の設置やゴミ収集。病院、弁護士事務所、介護施設、保育園、学校、葬儀産業など、公的ないしは民間のソーシャル・サービス業務に急速にとってかわっていった。このことでひとびとの寿命は延び、知的水準も上がり、安心して暮らせる環境は整ったが、代わりに失ったものも大きかった。それこそみずからの手で世話しあうという協働の能力であり、“共

同防貧”の仕組みであった。ひとびとは《いのちの世話》のプロセスを外部に委託することで、そのふるまいにおいて受動化され、無力化されていった」と書いている。この主張に、私もまったく異論がない。

そして鷺田氏は、その構造から抜け出すために、「その基本になるのは、まず、低賃金で中央の下支えをする、あるいは電力や部品、食材、労働力をただ中央に向けて供給するといった地方のあり方から下りて、グローバル化の中で制御不能になっている経済の規模を、身の丈サイズのものに、つまりは修正も停止もきくあるていど自己内で循環させることのできるような適性サイズに切り替えてゆくことであると思う」と書いている。鷺田氏の脳裏には、福島第一原発事故が重くのしかかっており、それがこのような提言の背景になっているのであろう。この鷺田氏の提言にも、私は賛同する。

さらに鷺田氏は、「社会がいやでも縮小してゆく時代、“廃”炉とか“ダウン”サイジングなどが課題として立ってくるところでは、先頭で道を切り開いてゆくひとよりも、むしろ最後尾でみなの方を確認しつつ進む登山グループの“しんがり”のような存在、退却戦で敵のいちばん近くにいて、味方の安全を確認してから最後に引き上げるような“しんがり”の判断が、もっとも重要になってくる」、「この国は本気で、“退却戦”を考えなければならない時代に入りつつある。そのときリーダーの任に堪えるのは、もはや“引っ張ってゆく”タイプのリーダーではない。それは“右肩上がり”の時代にしか通用しないリーダー像だ。これに対して、ダウンサイジングの時代に求められるのは、いってみれば“しんがり”のマインドである」と書いている。これが鷺田氏の結論であり、傾聴に値する見解である。私も日本の未来は、もはや既存のリーダー像には托しきれないと考え、新たなリーダー像を模索しているし、生み出そうと考えている。鷺田氏にもまだ、新たなリーダー像を創造し、実践する時間と体力が残っているはずである。同じ団塊の世代として、ぜひ、実現してもらいたいと願うものである。

## 7. 「余命」 五木寛之著 祥伝社 2015年5月10日

副題：「これからの時間をいかに豊かに生きるか」

帯の言葉：「人生百年時代を生きるために」

五木寛之氏は、「出版社から私のところにくる企画も、いままでとは違ったものが多くなってきました。これまでではどうやって生きていくかという、いわば生き方を中心にした本の依頼が多かったのですが、最近はそうではないのです。人生の締めくくり、逝き方に関する覚悟やノウハウをテーマにした本を出さないかという依頼が非常に多くて、私もちょっと驚いているところです」と書き出している。それは日本が超高齢社会に突入して、高齢者やその周囲の人たちに、「逝き方に関する覚悟やノウハウ」が求められている証左でもある。



五木氏は、「余命とは余裕をもって残された時間」と考えればよいと言い、「はたして何歳ぐらいが人間にとって逝きごろか。生物学的に見て人間の可能性は 120 歳までとよく言われますが、普通に社会活動ができて、まわりに世話にならないで生きられる年齢ということを考えると、まあ、せいぜいが 85 歳か 90 歳半ばくらいでしょうか」と、ありきたりなことを書いている。

また五木氏は、「医学の世界の定見は、本当によく変わります。これを単なる流行と考えたほうがいいのか、研究の成果と見るべきなのか、権威ある学会の論文でさえも 10 年、20 年も経つと定説がひっくり返るようなことが次から次へと出てくるから、医学の素人としては困ってしまうのです。私は結局のところ、もうこうなっては、自分の直感というか、動物的感觉を信じて生きていく以外にない、という考えです。それで自分を納得させているのです」と、書いている。この考えには、私も素直に同意する。私は、自分の身体を実験台にして、現代医学に頼らない「逝き方」を試してみるつもりだ。

さらに五木氏は、「われわれは元気で生きている間に、身の処し方についていろいろ考えたりするけれど、逝き方ということに関して、あまりにも比重が軽すぎたのではないのでしょうか。これからは生きるということと、逝くということを同じぐらいの比重で大事に考えていく。特に後半生の人生においては、そのことが非常に大事です」と書いている。私は、超高齢社会のトップバッターである日本の高齢者が、「逝き方」についての新たな思想・哲学を創造することこそ、21 世紀の世界を救う切り札になると考えている。

## 8. 「老いの作法」 菊池和子著 宝島社 2015 年 5 月 14 日

副題：「迷惑をかけない“生き方”の手引き」

帯の言葉：「コロッと死ぬために、“きくち体操”の菊池和子 81 歳が、日々していること、考えていること」

著者の菊池氏は、「私は 30 代のころから、“最期まできちんと生きる”ために体を動かすと言いつけてきました。そのためにも、体に感謝する、人様に迷惑をかけないという伝統的な日本人の考え方を忘れることなく、かついまの時代の変化を受け入れながら、私自身が心に決めた生き方をまっとうしたいと思っています」と書き、「80 歳になったときにパタッと自分の身体の様子が変わった感じがした」と述べている。そして「人はひとりで生まれてきてひとりで死んで行くものですし、壮大な自然の営みからしたら、ひとりの人間の生き死になど、本当にささいなできごとです。だから私は人様に迷惑をかけず、跡を濁さ逝きたいと思うのです」と書いている。

## 【中国経済最新統計】

	① 実 質 GDP 増加率 (%)	② 工 業 付 加 価 値 増 加 率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加 率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億ドル)	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加 率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009年	9.1	11.0	15.5	▲0.7	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011年	9.2	13.9	17.1	5.4	24.0	1549	20.3	24.9	1.1	9.7	13.6	14.3
2012年	7.7	10.0	14.3	2.7	20.7	2303	7.9	4.3	▲10.1	▲3.7	13.8	15.0
2013年	7.7	9.7	11.4	2.6								14.1
3月	7.7	8.9	12.6	2.1	21.5	-9	10.0	14.2	-19.7	5.7	15.7	14.9
4月		9.3	12.8	2.4	19.8	182	14.6	16.6	13.9	0.4	16.1	14.9
5月		9.2	12.9	2.1	19.7	204	0.9	-0.1	-14.4	0.3	15.8	14.5
6月	7.5	8.9	13.3	2.7	19.9	271	-3.3	-0.9	-17.3	20.1	14.0	14.1
7月		9.7	13.2	2.7	20.2	178	5.1	10.8	1.2	24.1	14.5	14.3
8月		10.4	13.4	2.6	21.4	285	7.1	7.1	-11.7	0.6	14.7	14.1
9月	7.8	10.2	13.3	3.1	19.6	152	-0.4	7.4	-16.8	4.9	14.2	14.3
10月		10.3	13.3	3.2	19.2	311	5.6	7.5	-8.2	1.2	14.3	14.1
11月		10.0	13.7	3.0	17.6	338	12.7	5.4	-9.3	2.3	14.2	14.2
12月	7.7	9.7	13.6	2.5	17.2	256	4.3	8.6	-3.4	-42.6	13.6	14.1
2014年												
1月				2.5	19.8	319	10.5	10.8	-8.6	-4.5	13.2	14.3
2月				2.0		-230	-18.1	10.4	1.3	4.0	13.3	14.2
3月	7.4	8.8	12.2	2.4	17.3	77	-6.6	-11.3	6.1	-1.5	12.1	13.9
4月		8.7	11.9	1.8	16.6	185	0.8	0.7	0.5	3.4	13.2	13.7
5月		8.8	12.5	2.5	16.9	359	7.0	-1.7	8.4	-6.6	13.4	13.9
6月	7.5	9.2	12.4	2.3	17.9	316	7.2	5.5	10.3	0.2	14.7	14.0
7月		9.0	12.2	2.3	15.6	473	14.5	-1.5	14.0	-17.0	13.5	13.4
8月		6.9	11.9	2.0	13.3	498	9.4	-2.1	5.2	-14.0	12.8	13.3
9月	7.3	8.0	11.6	1.6	11.5	310	15.1	7.2	9.4	1.9	11.6	13.2
10月		7.7	11.5	1.6	13.9	454	11.6	4.6	8.7	1.3	12.1	13.2
11月		7.2	11.7	1.4	13.4	545	4.7	-6.7	-8.6	22.2	12.0	13.4
12月	7.3	7.9	11.9	1.5	12.6	496	9.5	-2.3	6.1	10.3	11.0	13.6
2015年												
1月				0.8		600	-3.3	-20.0	2.2	-1.1	10.6	14.3
2月				1.4		606	48.3	-20.8	49.8	0.1	11.1	14.7
3月	7.0	5.6	10.2	1.4	13.1	31	-15.0	-12.9	0.3	1.3	9.9	14.7
4月		5.9	10.0	1.5	9.6	341	-6.5	-16.4	2.9	10.2	9.6	14.4

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。  
2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1月と2月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、（ ）内の数字は1月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。  
3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の86%（2007年）を占めている。⑥―⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①―⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。